

# corega WLCB-11 設定ガイド (全 OS 共通)

## 本紙の読み進め方

本紙では、Windows 98/Me/2000/XP で共通する手順をひとつの手順(画面)で説明し、必要に応じて Windows 98/Me/2000/XP での手順の違いを説明しています。

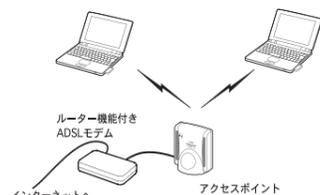
## 通信モードについて

無線 LAN には、「インフラストラクチャーモード」と「アドホックモード」の2種類の通信モードがあります。モードの違いで、ネットワークの設定も大きく変わります。

### インフラストラクチャーモード

#### ■ インフラストラクチャーモードとは?

アクセスポイントとパソコンが通信をする方式です。アクセスポイントが ADSL や CATV、ISDN に接続されていれば、インターネットにアクセスできるようになります。また、すでに有線のネットワークが構築されている環境に、無線 LAN を追加するときなども、インフラストラクチャーモードにします。

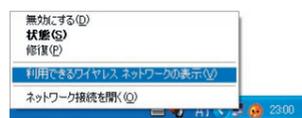


#### こんな用途に…

- ・インターネット接続を家族みんなで共有したい
- ・企業内 LAN に無線 LAN を追加したい

#### ■ インフラストラクチャーモードに設定する

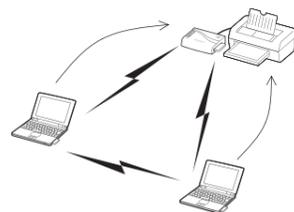
本製品の ESSID と WEP をアクセスポイントと同じ設定にします。Windows XP をお使いの場合には、ネットワークアイコン( )を右クリックし、表示されるメニューから「利用できるワイヤレスネットワークの表示」をクリックすると、接続できるアクセスポイントを選択できます。



### アドホックモード

#### ■ アドホックモードとは?

無線 LAN 機能のあるパソコン同士で通信する方式です。アクセスポイントは不要です。



#### こんな用途に…

- ・離れた場所にあるパソコン同士でファイル交換をしたい

#### ■ アドホックモードに設定する

接続する2台のパソコンの ESSID、WEP を同じ設定にします。

## 各項目を設定する (Windows XP)

### 設定画面を呼び出す

#### STEP 1

デスクトップ右下の通知領域にあるネットワークアイコン( )をクリックします。「ワイヤレス ネットワーク接続 の状態」ダイアログボックスが表示されます。

#### STEP 2

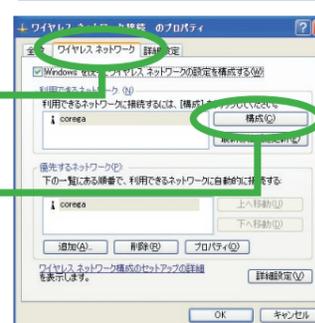
「プロパティ」をクリック



#### STEP 3

1. 「ワイヤレスネットワーク」タブをクリック

2. 構成をクリック



### 各項目を設定する

「ESSID」を入力

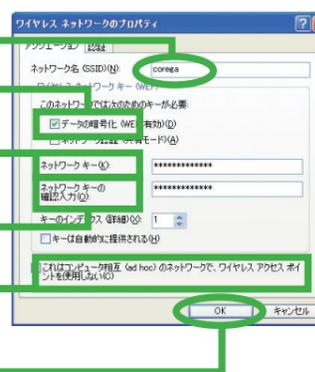
WEP を有効にする場合は、チェック

設定する暗号キーを入力

「ネットワークキー」と同じ内容を入力

アドホックモードで使用する際には、  
チェック

クリック



#### ■ ESSID

無線 LAN に接続する機器を識別する名前です。同じ ESSID に設定された無線 LAN 同士でしか通信できないため、独自の ESSID を設定することにより、外部から不正侵入される危険がやや減ります。

## ■ WEP

WEP を設定することで通信内容を暗号化し、盗聴されても内容を解読できないようにします。ただし、相手側通信機器も WEP 機能に対応している必要があります。

「ネットワークキー」には、暗号キーを半角英数字で 13 文字(16 進数で 26 桁)、または半角英数字 5 文字(16 進数で 10 桁)で入力します。

## 各項目を設定する (Windows 2000/Me/98)

### 設定画面を呼び出す

#### STEP 1

Windows 2000 「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」から「ハードウェア」タブを表示し「デバイスマネージャ」をクリックします。

Windows Me 「マイネットワーク」を右クリックして「プロパティ」を表示します。

Windows 98 「ネットワークコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」を表示します。

#### STEP 2

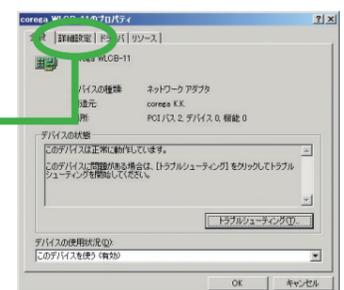
Windows 2000 1. 「ネットワークアダプタ」を展開  
2. 「corega WLCB-11」と表示されていたら、ダブルクリック



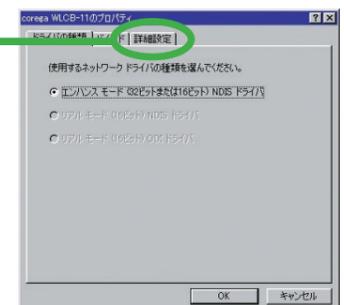
Windows Me Windows 98 「ネットワークの設定」タブ内の「corega WLCB-11」をダブルクリック

#### STEP 3

Windows 2000 「詳細設定」タブをクリック



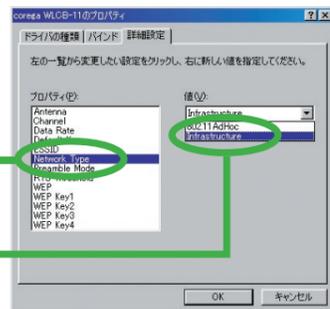
Windows Me Windows 98 「詳細設定」タブをクリック



## 通信モードを設定する

インフラストラクチャーモードで使用するか、アドホックモードで使用するかを設定します。

- ・「802.11 AdHoc」 アドホックモード
- ・「Infrastructure」 インフラストラクチャーモード



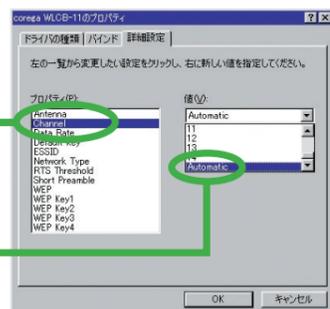
1. 「Network Type」をクリック

2. 通信モードを選択

## チャンネルを設定する

アドホックモードの場合には、チャンネルを変更できます。接続先のパソコンと同じチャンネルになるように「1」～「14」から選びます。

「Automatic」を選ぶと自動的に設定されます。



1. 「Channel」をクリック

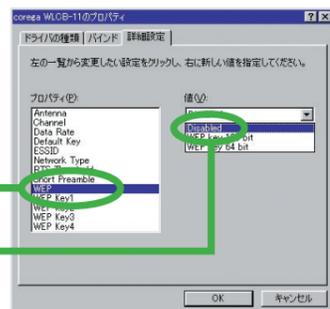
2. チャンネルを選択

## WEP を設定する

WEP を設定することで通信内容を暗号化し、盗聴されても内容を解読できないようにします。ただし、相手側通信機器も WEP 機能に対応している必要があります。

本製品は、「64bit」と「128bit」の2種類の WEP に対応しています。「128bit」の方がより安全です。また、定期的に暗号キーを変更することで、より安全性が高まります。

- ・「Disabled」 WEP を利用しない
- ・「WEP key 128 bit」 16 進数で 26 桁までの暗号を利用可能
- ・「WEP key 64 bit」 16 進数で 10 桁までの暗号を利用可能

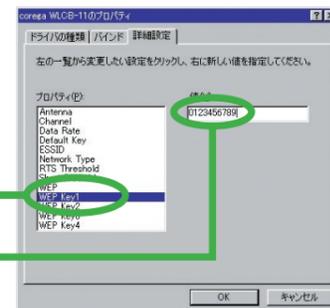


1. 「WEP」をクリック

2. いずれかの項目を選択

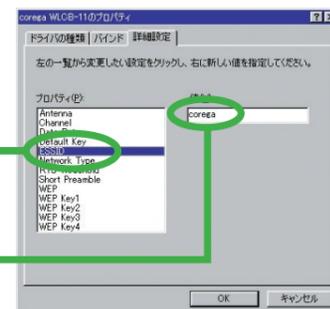
3. 「WEP Key1」をクリック

4. 暗号キーを入力（例：0123456789）



## ESSID を設定する

無線 LAN に接続する機器を識別する名前です。同じ ESSID に設定された無線 LAN 同士でしか通信できないため、独自の ESSID を設定することにより、外部から不正侵入される危険がやや減ります。



1. 「ESSID」をクリック

2. 「ESSID」を入力（例：corega）

## 接続を確認する

Windows に標準で搭載されている ping コマンドを使用することで、LAN に正しく接続されていることを確認できます。

以下の操作説明では、アクセスポイントに corega Wireless LAN APL-11 を使用している場合の例で説明します。なお、APL-11 の IP アドレスは 192.168.1.230 に初期設定されています。

### STEP 1



「スタート」→「すべてのプログラム」から「アクセサリ」の「コマンドプロンプト」をクリックします。



「スタート」→「プログラム」から「アクセサリ」の「コマンドプロンプト」をクリックします。



「スタート」→「プログラム」から「アクセサリ」の「MS-DOS プロンプト」をクリックします。

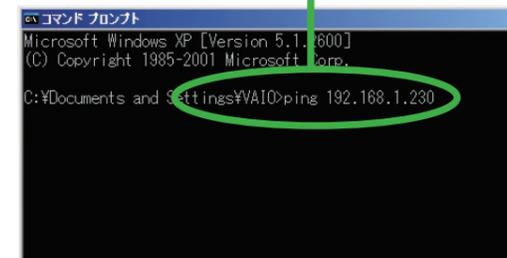


「スタート」→「プログラム」から「MS-DOS プロンプト」をクリックします。

### STEP 2

「ping 192.168.1.230」\* と入力して「Enter」キーを押します。

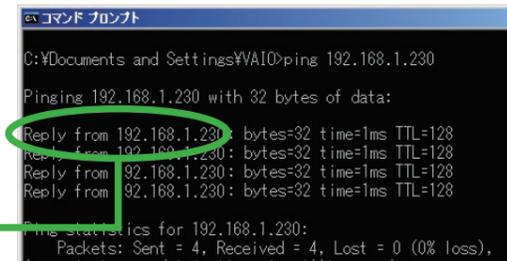
\* ご利用のシステムにより入力する IP アドレスは異なります。無線 LAN 通信の相手先となる機器の IP アドレスを入力してください。



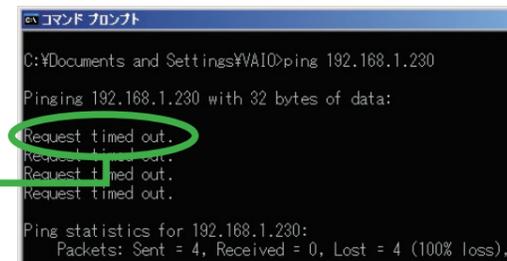
### STEP 3

結果が表示されます。

通信が成功した場合の画面例



通信が失敗した場合の画面例



## 通信できない場合の確認項目

- Link LED が点灯している場合
  - 本製品と通信相手のネットワークの設定は正しいですか？
- Link LED が点灯していない場合
  - 本製品の ESSID は正しく設定されていますか？
  - 本製品の通信モードは正しく設定されていますか？
  - 本製品の WEP は正しく設定されていますか？

## ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、下記の URL をご覧いただき、下記の連絡先までご連絡ください。できるだけ電話による直接のお問い合わせは避けてください。

FAX によって詳細な情報を送付していただくほうが、電話によるお問い合わせよりもより早く問題を解決することができます。

URL: <http://www.corega.co.jp/corega> サポートセンター

Tel: 045-476-6268

月～金（祝・祭日を除く）

10:00～12:00、13:00～17:00

FAX: 045-476-6294